

社長ブログNo.1  
丹羽広社長の

# Knowledge Cellar

最終回  
ゲスト

バリトン歌手  
豊島雄一氏

お金と仕事と  
ワインの話



H O S T  
フェニックス証券  
代表取締役社長  
**丹羽広氏**

G U E S T  
バリトン歌手  
**豊島雄一氏**

P R O F I L E  
金融会社社長業の傍ら、(社)日本ソムリエ協会が認定するワインエキスパートの資格を取得。声楽家としてチャリティコンサートに参加する一面も。

## 真正面からぶつかれば、ちゃんと相手は応えてくれる。音楽も、ビジネスも

### 瞬間芸術の美が日本人の心を捉えるには？

丹羽社長(以下、丹羽) 先日は弊社主催のチャリティコンサートにご出演いただき、ありがとうございました。心強かったです(笑)。  
豊島氏(以下、豊島) こちらこそ、お誘いありがとうございます。面白かったのが、あのコンサートはオペラを軸にお客さまが集まっているんじゃないかと、丹羽さんを軸に集まってくれた方々だから、お客さまの反応が新鮮でした。  
丹羽 「丹羽が恥をかくところをみてやろう」ってね(笑)。  
豊島 違うよ(笑)。いつもビジネスや、違う方面でお付き合いをしている丹羽さんの別の一面が見られるからです。  
丹羽 「オペラを初めて聴きました」という方も多くいらつしやったのですが、みなさん「また同じような企画があったらぜひ行きたい」と言ってくれました。  
豊島 マイクを使わずに、五感すべてうれしかったね。



で感じるような生の声の歌に興味を持ってくださったんですね。うれしいことです。  
丹羽 日本はまだオペラというものになじみがない。企業もスポンサーになつたからといって何になるんだろうって首傾げてる状態ですね。  
豊島 ようやく新国立劇場というオペラハウスができて良い方向に進んでいるのかもしれないけど、丹羽 ぶっちゃけてしまつと、いまはオペラという文化に対して、スポンサーが目をつぶっていているんですよ。  
豊島 オペラをビジネスとして成立させる、プロデューサー的な人が少ないんですよ。  
丹羽 人が人を好きになると同じように、美しい音楽を演奏したい、鑑賞したいというのは人間の本能。ただ、CMソングみたいに誰もが口ずさむ旋律から、クラシックの名曲のように嘔めば嘔むほど味が出るスルメイカみたいなものまで、幅が広いのが音楽。日本の蒸し暑い夏の日には、アイスクリーム屋の横でスルメイカを売るには仕掛けが必要なので。直接経済的な効果がないという面では、実はスポーツと一緒にしよ。イチローにしても石川遼くんにしても、彼らがボールを打ったり飛ばしたからといって経済的な効果があるわけじゃなくて、実は誰かがそれをエンターテインメントとして見せて、ビジネスにするという仕組みを作っているからなんです。

読みましよう」とか「フーガとはソナタとは」という教育を始めた。当時はそういう需要があつただろうし、一生懸命輸入した意図は否定しないけれど、そろそろ幼児教育も生涯教育も抜本的に見直す時期なのではないでしょうか。  
豊島 「自分はこれならできるな」「楽しいな」っていうところから入つてもいいと思うんです。そこから教育につなげていけばいい。私、小学校や中学校に行つて体育館で歌つたりもするんですよ。  
丹羽 子供たち、どんな反応？  
豊島 ちゃんとね、こっちが真正面からぶつかつていけば、じつとこつちを見て真剣に最後まで聴いてる。音楽が魅力的であれば何も言わなくても聴いてくれるし、言わんとしていることがちゃんと伝わるんですよ。  
丹羽 そういふ、ガツン、系の大人がいらないでしょうね。豊島さんのされていることはものすごく地道な作業だけど、いまの日本にと

てうれしかったね。  
丹羽 そこから音楽人生活だ。  
豊島 いや。中学校はプラスチック部がなかったから、やることなくて、非行に走つた(笑)。  
丹羽 え。  
豊島 あんまりひどいんで、担任が「豊島には音楽やらせないだダメだ」と言つて、合唱部の助っ人やらされて、いつの間にか部長もやつた。  
丹羽 安心しましたよ(笑)。  
豊島 東京から来た合唱講師の人に「君いい声してるから音楽学校に進んでみないか」って言われて、そこから本気で考え出したんです。  
丹羽 じゃあ、我々は特に音楽の英才教育を受けたわけではないけど、いまこうして音楽で人前に立つ機会に恵まれているという点で共通してるんですよ。  
豊島 だって私ピアノ始めたのなんて高1だもん。中3のときに親に「ピアノ買つてくれ」って言ったら「バカも休み休み言え」って言われた。  
丹羽 そりゃそうですよ、いままでグレてたつていうのにな。  
豊島 それで高1のときに先生が家庭訪問に来てくれてさ、両親を説得してくれて、晴れてピアノがわが家に来たんです。  
丹羽 高校のときなんて悪いことした生徒くらいいしか家庭訪問なんてないですからね(笑)。ご両親も何事かと思われたでしょうね。  
豊島 私が本当に思うのは、音楽はもともとみんな好きなんだ。つてこと。それを無理やり「これ歌え」だの「これ吹け」だの言われるから嫌になつちゃうんでね。  
丹羽 明治政府は、西洋音楽は修身に役立つと考え、「譜面はこ

### いま伝えたいメッセージ 子供たちに歌うこの一曲

ヨーロッパで国や企業が積極的にバックアップしているのは、国がオペラを文化としてかかげるのなれどと認めているからでしょうね。利害が一致するようなバランスをスポンサーと築きたいものです。パトロンじゃなくてね。  
豊島 それだけの魅力があるものなのだからね。音楽でもスポーツでも、私たちプレーヤーが見せるのは、瞬間芸術、なんです。その瞬間を直接感じるのと、録ったり写したりしたものを聴いたり観たりするのとじゃ全然違う。その一瞬にもっと注目してもらえない本になれないな、と思います。  
丹羽 西洋と日本じゃ何が違うんでしょう。  
豊島 残念ですが、プレーヤーの魅力ですね。国民性なのか、ヨーロッパの人たちに比べて、見せるということに不慣れなんでしょう。  
丹羽 それから、今回のチャリティコンサートに来てくださった方の感想じゃないけど、やっぱりオペラを知るための間口が狭いですよね。圧倒的に。

取材協力  
フランス料理 APICIUS  
東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館ビル地下1階  
TEL03-3214-1361  
11:30~15:00 17:00~23:30 日曜定休

世界最古の料理書「料理大全」を著した食の賢人、マルクス・ガピウス・アピシウスの名を掲げるフレンチレストラン「アピシウス」。アピシウスが誇る伝統的フレンチをベースとした料理を、常時約500種の中からソムリエが厳選したワインとともに。(写真右)「雲丹とキャビアの野菜クリームソース コンソメゼリー寄せ」¥5,880。



### ゲストに贈る“珠玉の1本”



十勝ワイン「アムレンシス」1998年

豊島さんのふるさと、北海道のワインです。“音楽とワインは洋物”的な風潮がありますが、そんなことをいふのはこの「アムレンシス」が、音楽については豊島さんが教えてくれることですよ!

## 対談を終えて

6か月にわたり、経済やビジネスの世界、飲食の世界と様々な分野のフロンティアの貴重なお話を聞かせて

いただいた。我が国を代表するバリトン歌手、豊島雄一さんにご登場いただきました。「お金と仕事とワインの話」という副題がつく対談コーナーに「なんて俺が?」と当初驚いていた豊島さん。素敵なお話で、僕からワインもプレゼントしますよ、とお誘いしたら、快諾してくれました。昨年末のチャリティ・オペラ・コンサートでは、その圧倒的な声量と比類なきドラマチックな表現力で、会場を盛り上げてくれました。しょぼくれた私の司会と歌のせいでシラツとした会場の雰囲気から救ってくれたのが豊島さんの熱い歌声。これからますますのご活躍を祈念していますが、またチャリティにも参加してくださいね。

「“為替力”で資産を守れ!」  
(アスキー・メディアワークス刊)  
丹羽広著



昨年から為替相場の激変を事実的中させた超人気社長ブログがついに書籍化。100年に一度の危機を生き抜く21世紀のバイブル。発売早々、話題沸騰。

つて大切だし、必要なことですね。豊島 必ず、最後に、私の太陽という意味の「オー・ソレ・ミオ」を歌うんです。どんなやんちゃ坊主でもね、本物に出会えばどう化けるかわからない金の卵ですからね。だから、私の「オー・ソレ・ミオ」はこれからの背負つて立つ子供たちへのメッセージなんです。



豊島 私たちも日々練習、訓練が必要だし、それをやる場所や設備も、今度はそれを披露する場所も必要。  
丹羽 正直、この業界の現状はパトロンがいないと成り立たないですよな。  
豊島 でもそれじゃダメだよな。自立歩行しないと。だから自分でチケット持つていって頭下げて買つていただいて、つていうことも私はしますしね。でも、野球だってゴルフだって、パトロンが不可欠なのはクラシック業界と一緒にんだよね。ただ、スポーツ業界は、しっかりと仕組みができてる。  
丹羽 そうそう。トッププロが美技を魅せ、さらにはレッスンプロやコーチが裾野を広げる。その結果、アマチュア層が憧れとか、向上心をもち、さらに上を目指すという仕組みがね。そこができていないことが、日本のクラシック業界がいまひとつ開けていけない理由のひとつでしょうね。  
豊島 ただし、音楽にしてもスポーツにしても、仕組みの根底にあるものが人々を熱狂させるくらい魅力的でなければ、その仕組みは作れないよね。モドキはダメ。  
丹羽 そうですね。いい音楽つてそもそも何かつていうところからね。